

R3. 8. 17  
花園保育園

### コロナワクチン

国内で新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化する中、ようやく国民の約5割が1回目のワクチン接種を終えた。9月以降は供給不足も改善する見込みだ。インド由来の変異ウイルス「デルタ株」の感染爆発に歯止めをかけるには、若い世代を含めたワクチン接種の加速が欠かせない。正確な情報伝達と、動機付けが急務だ。(医療部 井美奈子、竹井陽平)

#### ファイザー製とモデルナ製のワクチンについて

	ファイザー	モデルナ
接種回数(12日現在)	9424万 7116回	1393万 2382回
37.5度以上の発熱*	38%	78%
接種部位の痛み*	90%	88%
倦怠感*	69%	84%
強いアレルギー反応	100万回接種あたり5回	同2回

(首相官邸と厚生労働省審議会の資料を基に作成) ※は2回目接種後

#### 新型コロナワクチン接種で期待できる効果の例

	せき、発熱などの症状が出る ファイザー95% モデルナ94%予防
	入院し酸素吸入などが必要になる ファイザー、モデルナとも90%以上予防
	新型コロナにかかる ファイザー42%、モデルナ76% 予防(デルタ株への効果)

(海外での研究データなどに基づく)

# 感染防止接種加速力ギ

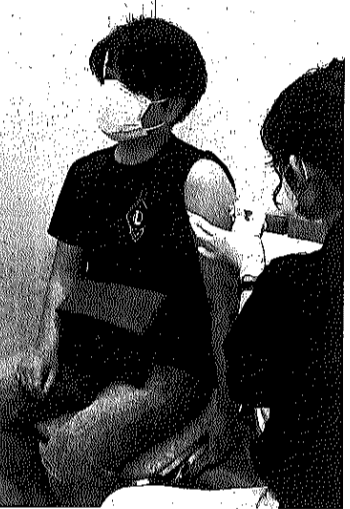
## 副反応心配「7割」若者に特典も

「ファイザーを打ちたいんだけど。7月下旬、東京都荒川区では、米モデルナ製の接種会場の枠が空いていない一方で、住民からそんな問い合わせが相次いだ。担当者は「モデルナ接種後の腕の腫れなどがSNSなどで話題になり、懸念が広がったのか」と首をかしげる。台東区でも同時期、モデルナ製の接種枠だけが半分ほどしか埋まらない日が続いた。

インターネット上では、副反応の強さを警告するものから、接種すると「不妊につながる」「遺伝子が改変される」といったデマまで様々な情報があふれ、接種に不安や疑問を持つ人は少なくない。

国際医療福祉大などのチームが、7月に首都圏の20〜60歳の3129人に実施した調査では、4割が「様子を見たい」「接種したくない」などワクチン接種に消極的な回答だった。若い世代ほどその傾向が強くなり、20〜37.5度以上の発熱が見られた。倦怠感もファイザー製で69%、モデルナ製で84%報告された。

ただ、副反応はほぼ数日で治まり、急性アレルギー反応のアナフィラキシー



モデルナワクチンの接種を受ける男性(11日、東京都台東区の上野精養軒で)

の頻度もまれだ。接種後の死亡例も厚生労働省の審議会で精査されているが、現時点で因果関係が結論づけられた事例はないとしている。

国内では、接種の効果が

新型コロナワクチンの接種は、本人の重症化や発症予防だけでなく、周りに感染を広げない効果もある。京都大の西浦博教授(理論疫学)は、感染者数と接種者数の変化、クラスター(感染集団)などのデータを基に、昨年11月〜今年6月の間でワクチンの効果を調べる想定実験を行った。その結果、2月以降に医療従事者への接種が進んだことで、「医療施設、高齢者施設でのクラスター発生が300件以上抑えられた」と結論づけた。

### クラスター抑制に効果

万人の調査では、感染の予防効果がモデルナ製76%、ファイザー製でも42%とするデータが出ている。自分が感染源になるリスクは大きく下がるが、完全ではない。接種者が感染する「ブレイクスルー感染」と呼ばれる事例の報告が増えている。米疾病対策センター(CDC)はデルタ株の拡大に伴い、7月末にワクチン接種者にもマスクの着用を求める方針を打ち出した。「2回接種が完了してもマスクや手洗い、密の

### マスク・手洗い・密回避は必要

回避などの予防策は従来通り続けてほしい」と、厚生労働省も呼びかける。新型コロナウィルスは2週間ほど1回程度変異を起すと言われており、感染者が多ければ多いほど、新たな変異株が生まれる危険性は高まる。東京農工大の水谷哲也教授(ウイルス学)は「ワクチンで感染者数を抑えられれば、デルタ株のような強力な変異株の出現を遅らせることができる利点もある」と説明する。(科学部 松田俊輔)

7月末には2割まで低下した。若い世代の入院や重症化を抑える効果も期待される。

今後の課題は、スムーズな供給と、若い世代への理解促進だ。供給量が自治体の希望数に満たず、現在も接種の予約がとりにくい自治体も多い。政府は、10月初旬までに、12歳以上の国民の8割が2回接種できる量が供給できるとの見通しを示している。この間に、いかに若い世代の接種意欲を高めるかが重要だ。新型コロナワクチンに関する情報発信サイト「こびナビ」代表を務める吉村健佑・千葉大病院特任教授によると、接種意欲が低い若い世代も、

身近な人が接種するなど、小さなきっかけで行動を変えようという。きっかけの一つとして、これから接種する20、30歳代に自治体の特典を付ける動きも出てきた。東京都はスマートフォンアプリに接種記録を登録し、ポイントやクーポンにつながる事業を行う予定。群馬県は9月末までに抽選で乗用車や旅行券などを贈る計画だ。吉村特任教授は「特典もきっかけになりうるが、すでに接種した人が不公平感を抱かないような仕組みが必要だ。医療逼迫を抑えるなど社会全体の利益につながることも、きちんと説明する必要があり」と指摘している。

広島県内では8月14日、新たに20人の新型コロナウイルス感染が発表されました。県内の新規感染者が、200人を超えるのは、217人の感染が公表された5月21日以来、85日ぶりとなります。福山市では、10歳未満〜80歳代の35人の感染者が確認され、酒類を提供する飲食店2店でクラスターが発生したと発表されました。(二)

米ワクチン接種3回目一部承認  
【ワシントン＝船越翔】米食品医薬品局(FDA)は12日、米ファイザーやモデルナ製の新型コロナウイルスワクチンについて、3回目の追加接種を承認すると発表した。臓器移植などで免疫力が低下した人が対象となる。インド由来の変異ウイルス「デルタ株」が猛威を振るう中、重症化のリスクを下げるためだ。FDAは12日の声明で「米国はパンデミック(世界的大流行)の新たな波に突入している。追加接種の情報評価し、防御力を高められる可能性がある」と判断した」と強調した。今回の措置の対象外の人については「接種を完了すれば現時点では追加接種の必要はない」との見解を示した。

ファイザーやモデルナ製は規定の2回接種を完了した後、効果がいつまで続くかはまだ明確に分かっておらず、両社とも追加接種の必要性を主張していた。追加接種はイスラエルやハンガリーなどで始まり、英国やドイツ、フランスも9月からの実施を決めている。